学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【地理歴史／日本史Ｂ】

１．対象　普通科文系

全体的に集中して授業を受けており、教師の発問に対しても積極的に回答するなど、意欲的に学習に取り組んでいる。授業中盤での大テーマに関する問いについては、自分なりの考えを主張できるようになってきている。前単元では、ワシントン体制と国際連盟脱退を中心に、日本の対外関係を重点的に学習した。

２．単元名　「第 10 章　二つの世界大戦とアジア　第 6 節第二次世界大戦　」（全 13 時間）

３．単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・日本のドイツへの接近が、その後の日本の外交政策に与えた影響や関連する当時の世界情勢について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。
思考力，判断力，表現力等	日独防共協定の成立から、支那事変を経て日米関係が悪化していく流れを理解するとともに、第二次世界大戦と太平洋戦争勃発の要因について考察できる。また、現代とのつながりなどを視点として、関連する当時の世界情勢や、それらの現代世界とのかかわりについて多面的・多角的に考察し、表現している。
学びに向かう力，人間性等	世界大戦が日本の国内政治や外交政策に与えた影響について、軍事同盟の意義などの現代とのつながりなどにも関心を持ち、学習を振り返りながら課題を主体的に追究しようとしている。

４．本時の目標

・三国同盟締結を急いだ理由について、「日独伊提携強化に関する陸海外三省係官会議　議事録」の内容から考察し、表現できる。

５．授業展開【　本時　・　単元　】　※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い
Ｑ日本はなぜ、日独伊三国軍事同盟締結を"急いだ"のか？

考えるための材料
資料 ①「日独伊提携強化に関する陸海外三省係官会議　議事録（昭和 15 年 7 月 12 日，16 日）」 ②「世界情勢の推移に伴う時局処理要綱（昭和 15 年 7 月 27 日）」 歌教材 ①『日独伊防共トリオ』（作詞：長田幹彦　作曲：阿部武雄　昭和 13 年５月） ②『三国旗かざして－日独伊同盟の歌－』（作詞：大木惇夫　作曲：山田耕筰　昭和 15 年 12 月）
想定される活動
・議事録の内容には、アメリカの国名が一度も出てこないこと。 ・ドイツが欧州での戦争に勝つという前提で議論が進んでいること。 ・仏印や蘭印をドイツが勢力圏に収めようと進出してくることを、陸海軍の当事者たちが極度に警戒していること。 ・仏印や蘭印地域での日本の指導的地位をドイツにきちんと認めさせることを重視していること。

対話と思考（対話を通した協働的な問題解決のプロセス）
・グループ形態　（４人班×８グループ　25 分） ※思考力など、能力が高い生徒を分散配置。議事録の内容を、教え合い、指摘し合いながら読み解いていく。

・留意事項

①日本の当事者たちが、ドイツのどのような動きを警戒しているかに着目させる。

②「世界情勢の推移に伴う時局処理要綱」で示された南進政策の推進とリンクさせる。

③『日独伊防共トリオ』，『三国旗かざして－日独伊同盟の歌－』を聴き、当時の世論がドイツに熱狂していたことに着目させる。

・問題解決のプロセス（例）

「日独伊提携強化に関する陸海外三省係官会議　議事録（昭和 15 年 7 月 12 日，16 日）」

生徒 A：「このままイギリスとかとの戦争に勝ったら、ドイツが有ランス領インドシナとかに進出してくるのを警戒してるってことかな？」

生徒 B：「でも、陸軍参謀本部の種村少佐は、ドイツには海軍力がないからアジアでは日本に対抗できないから大丈夫だと言っているよ。」

生徒 C：「確かにそうだけど、高山中佐が言っているように、東南アジア全域の指導権を日本に認めさせることが大事だというところに注目すべきじゃない？」

生徒 D：「ということは、アメリカを牽制するための同盟じゃないってこと？戦争に備えるための同盟じゃなくて？」

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

・ドイツが、フランス領インドシナやオランダ領インドネシアに手を出してくる前に、日本の勢力圏（仏印・蘭印が）　であることを示したかったから。

・日本は、日中戦争の泥沼化から抜け出すために南進政策の強化を図りたい。だが、仏印と蘭印がドイツの勢　力圏下に置かれると南方の資源確保という目的が達成できなくなるから。

・二つの歌から分かるように、ドイツへの期待の高まりの世論を無視できず、東南アジアの資源を素早く獲得し　たかったから。